

一般財団法人 GovTech東京
令和7年度第2回評議員会（定時）議事録

- 1 開催日時 令和7年6月26日（木）9時30分から9時57分まで
- 2 開催場所 一般財団法人GovTech東京会議室
- 3 出席評議員氏名 石橋浩一評議員、岩崎尚子評議員、川野正博評議員、
井上永一評議員、福島秀男評議員、日置巴美評議員、
高野克己評議員
※井上評議員はweb会議システム（Microsoft Teams）を利用し参加
- 4 出席役員氏名 宮坂学理事長、深井稔副理事長（議事録作成者）、
井原正博業務執行理事、中野啓太業務執行理事、
畑中洋亮業務執行理事、浅場理早子理事、葉山良子監事
※米田理事は都合により欠席
- 5 決議事項
第1号議案 役員の選任について
- 6 報告事項
報告第1号 2024年度（令和6年度）事業報告及び決算について
- 7 議事の経過の要領及びその結果
 - （1）通信状況の確認、議長の選出、定足数の確認及び議事録署名人の選出
開催に先立ち、web会議システムにより、各出席者の音声や映像が即時に他の出席者に伝わり、適時的確な意見表明が互いにできる仕組みになっており、出席者が一堂に会するのと同様の相互に十分な議論を行うことができる環境であることを確認した。
定款第19条及び評議員会規程第7条に基づき、議長を出席した評議員の中から互選により定め、高野評議員が議長となった。
議長は、定款第20条に基づき、定足数を満たす評議員7名全員の出席があったため開会を有効と認めた。定款第24条に基づき、議事録署名人について議長のほか2名として、石橋評議員と岩崎評議員に依頼する旨を提案し、異議がなかったため、指名された2名が議事録署名人に選出された。
 - （2）第1号議案 役員の選任について

ア 説明及び質疑

事務局が資料に基づき説明を行い、議長が意見等を求めたが、発言はなかった。

イ 決議

定款第21条第3項に基づき、議長が候補者ごとに採決を求めたところ、すべての候補者について全員一致で原案のとおり可決した。

(3) 報告第1号 2024年度（令和6年度）事業報告及び決算について

事務局が資料に沿って報告し、続けて葉山監事が監査報告について補足して説明を行った。

議長が意見等を求めたところ、以下の発言があった。

(発言要旨)

区市町村のDX推進について、サービス提供の迅速化・効率化のためのDXの必要性はますます高まると考えており、サポートを進めてほしい。

東京都各局のDX推進について、個別の事業単位ではDXが進んでいる実感がある。

仕組みを変えるトランスフォーメーションについて、都庁内部とは異なる目線からサポートし加速させてほしい。

短期間で広範囲にわたるDXを迅速に進められたのも、関係者全員の努力のたまものである。

引き続き、区市町村の標準化の問題への伴走型支援、また内部のDXとして縦割りをなくし効率的な行政運営を進めてほしい。

また、人材確保について非常に難しいと言われている中で着実に採用できていることも、事業の成果につながっていると考えている。

人事や人材、事業費など推進体制が整えられているが、他方で、組織的にも事業的にもさらに拡大し安定して進めていくために、不断の見直しも必要である。

また、新しい資本主義のグランドデザインの改訂版が公表され、地方自治体のDXについても記載されている。

このような政府資料をうまく活用し、国の方針と足並みをそろえながら、自治体のDXを加速させてほしい。

本年度は中期経営計画の二年度目であり、計画を進めていくために非常に重要な年度である。

東京都との施策としても、東京アプリ、AIの活用などがあり、GovTech東京と東京都デジタルサービス局がいかにタッグを組み合わせながら連携して進められるかが、今後の東京都全体のDXにおける試金石になる。

また、各区市町村との協力も重要であり、昨年度から引き続き、信頼関係を重視し進めてほしい。

また、AIに関しては、世の中の注目度も高く、また技術は日進月歩で進んでいる。専門家の視点から、活用などについて、助言してほしい。

いずれにしても、東京都デジタルサービス局とGovTech東京の連携が引き続き重要になるので、よろしくお願いしたい。

本評議員会は、web会議システムについても終始中断等の審議の支障となる異状はなかった。

議長は、以上をもって本評議員会の議事を終了した旨を述べ、午前9時57分閉会した。

以上の議事のとん末を記録し、これを証するため記名押印する。

議長 高野 克己

議事録署名人 石橋 浩一

岩崎 尚子